

# 今後の進め方について

---







担当者会議  
(R1.5.9)



第1回  
(R1.7.9)



第2回  
(8月下旬)



第3回  
(10月頃)



以降～

## ○モデルルートを検討

- ・県と国、市町が連携し、モデルルート(案)を検討
- ・既存サイクリングルートやサイクリングイベントのコースを参考に安全性、快適性に配慮
- ・広域連携(県内・県外)ルートについても検討

## ○モデルルートの決定

- ・サイクリストを惹きつける魅力があるか
  - ・地域の景観、観光資源を活かしたルートか
  - ・魅力ある広域連携ルートか
- } 確認

## ○取組内容の検討

- ・走行環境の改善
- ・受入環境の充実
- ・情報発信
- ・インバウンド対策(多言語化等)

## ○取組み内容の決定

- ・持続的な取り組みを推進するための体制、役割分担
- ・関係者が連携し、実施スケジュール作成

## ○取組内容の進捗状況確認のため、年1回程度で協議会を開催

※ 協議会の開催に先立ち、担当者会議を開催し、詳細な検討作業、調整を実施



## ◆ 「サイクルツーリズムの推進に向けた具体の取組」のとりまとめイメージ（一覧表）

### 取組 1 自転車走行環境の改善

取組の具体的内容	実施箇所等	実施年度	実施主体
〇〇〇〇の整備	〇〇〇〇	20〇〇～20〇〇	県、市
〇〇〇〇の設置	〇〇〇〇	20〇〇～20〇〇	〇〇、〇〇

### 取組 2 サイクリスト受入環境の充実

取組の具体的内容	実施箇所等	実施年度	実施主体
〇〇〇〇の整備	〇〇〇	20〇〇～20〇〇	〇〇、〇〇
〇〇〇〇	〇〇〇〇	社会実験	〇〇、〇〇

### 取組 3 サイクリストへの情報提供の強化

取組の具体的内容	実施箇所等	実施年度	実施主体
〇〇〇〇	〇〇〇〇	20〇〇～20〇〇	〇〇、〇〇
〇〇〇〇	〇〇〇〇	随時	〇〇、〇〇

※ 取組内容が具体的に分かるように(誰がいつまでに何をするのか)整理する。  
 図面は、ルート全体を示したうえで、整備箇所がわかるようにとりまとめる。



## 「兵庫県自転車活用推進計画（仮称）」への記載イメージ

### サイクルツーリズムの取り組み（浜名湖一周サイクリングルート「ハマイチ」

○浜名湖におけるサイクリングを推進し、国内外から環浜名湖地域へサイクリストの誘致を図り、サイクリング観光の活性化することを目的として、浜名湖サイクルツーリズム推進会議を平成27年に設置。

浜名湖サイクルツーリズム推進会議

- ・情報発信や受け入れ態勢の整備等を実施（作業部会やワーキンググループを実施）
- ・メンバー（観光・自転車協会等、鉄道・舟運・道路事業者、新聞社、大学、行政等）

ハマイチ走行台数(人数) (推計) 約5万人【2017年】

凡例

- ハマイチコース(浜名湖一周)
- 自転車走行空間整備状況
- H29年度整備完了(約34km)
- H30年度整備予定(約31km)
- H31年度以降整備予定(約2km)



### 快適で安全安心にサイクリングができる環境の整備

#### ○自転車走行空間の整備

・2017年より自転車走行空間整備を実施【2020年(オリンピック)までを目標】

- 矢羽根(青色)の設置
- 自転車ピクトグラムの設置

#### ○ルート案内サインの整備

・2018年から路面表示及び自立型サインの整備を実施【2023年までを目標】

路面表示: 走行中のサイクリストを誘導

自立型サイン: 目的地までの案内や誘導、方向を伝える



(矢羽根設置箇所の走行状況)

(路面表示)

(自立型サイン)

### サイクルツーリズム推進のための取組

- バイクピット(68施設)とサイクリストウェルカムの宿(26施設)の認定
- レンタサイクル(8箇所、合計185台) ※施設数、箇所数、台数はいずれも(H30.3末)時点
- 「ガイドライド」や「大試乗会」等のイベント開催
- 鉄道や船へ自転車を積み込む「鉄道や舟運との連携」
- 情報発信(ホームページ、SNS、サイクリングマップ等)



バイクピットの例と認定施設用プレート



鉄道や舟運との連携



毎年開催の「浜名湖サイクルツーリング」



インバウンド対応サイクリングマップ(日本の交通ルールも掲載(英語))



静岡県・浜松市作成資料

0

➡ 本協議会の「最終とりまとめ」の概要版を記載する

資料: 自転車活用推進本部